

2014年度(2015年3月期) 第3四半期決算説明会



2015年1月30日

大正製薬ホールディングス株式会社

執行役員 齊藤 隆



2014年度第3四半期決算：概要

(億円)

	2013年度 3Q累計	2014年度 3Q累計	前年同期比 増減	
売上高	2,279	2,218	▲62	▲2.7%
セルフメディケーション	1,400	1,349	▲50	▲3.6%
医薬	880	868	▲11	▲1.3%
営業利益	365	248	▲116	▲31.9%
経常利益	438	309	▲129	▲29.5%
四半期純利益	278	196	▲82	▲29.5%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度第3四半期の概況（1）

- **セルフメディケーション事業（大正製薬 国内）**
 - 全体としては計画に対して進捗遅れの状況
 - 主要ブランドの実績
 - ・リポビタンシリーズ：夏場に加え10月～11月に進捗遅れ
 - ・パブロンシリーズ：計画線よりやや弱い
 - ・リアップシリーズ：X5の伸長により計画をやや上回る
 - ・リビタシリーズ：上期のトレンドから脱せず低調に推移
- **セルフメディケーション事業（海外）**
 - ほぼ計画通りの推移、為替の影響は軽微

<ご参考：市場の状況>

– 国内OTC医薬品市場：前年同期比（4～12月）▲2.7%

（※4～9月 ▲3.9%、10～12月 ▲0.4%）

（インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース）



2014年度第3四半期 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	2014年度 3Q累計	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	504	▲38	▲7.0%
パブロンシリーズ	183	▲6	▲3.2%
リアップシリーズ	111	+0	+0.4%
リビタシリーズ	29	▲4	▲12.0%
胃腸薬シリーズ	32	▲2	▲4.6%
ナロンシリーズ	29	▲3	▲7.9%
コーラックシリーズ	25	▲2	▲7.0%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度第3四半期 SM海外事業売上高

(億円)

	2014年度 3Q累計	前年同期比 増減	
海外事業	197	+6	+3.0%
SM海外	197	+6	+3.0%
海外ドリンク剤	69	+1	+1.8%
海外OTC医薬品	122	+4	+3.6%
アジア	101	+2	+1.6%
その他	21	+3	+14.1%

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度第3四半期の概況 (2)

• 医薬事業

– 主要製品の実績(前年同期比)

• 感染症領域

– ゾシン(+2.8%): 適応追加が引き続き寄与

– クラリス(▲20.1%): 薬価改定、抗菌薬市場の縮小等により減少

• 炎症・免疫領域

– エディロール(+25.0%): 骨粗鬆症治療のベース薬として浸透

– ボンビバ: 2013年8月に発売、採用施設が着実に増加

• 代謝性疾患領域

– ルセフィ: 2014年5月に発売、安全性最重視で情報提供を強化

<ご参考:市場の状況>

– 医療用医薬品市場: 前年同期比▲0.4%

・当社の主力市場である抗菌薬市場は▲8.3%

(経口: ▲10.5%、注射: ▲5.5%)

(Copyright 2015 IMS ヘルス、JPM2013年4月-2014年12月をもとに作成、無断転載禁止)



2014年度第3四半期

医薬事業：主要製品売上高

(億円)

		2014年度 3Q累計	前年同期比 増減	
感染症領域				
	ゾシン	206	+6	+2.8%
	クラリス	101	▲25	▲20.1%
	オゼックス	49	▲6	▲11.5%
炎症・免疫領域				
	エディロール	126	+25	+25.0%
	ボンビバ	25	+20	+343.6%
代謝性疾患領域				
	パルクス	55	▲8	▲13.1%
	ルセフィ	24	+24	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度3Q：売上高・利益の増減要因

(前年同期比増減額)

売上高 (▲62億円)	セルフメディケーション事業 (▲50億円)	医薬事業 (▲11億円)
営業利益 (▲116億円)	売上総利益* ▲59億円 (売上総利益率* 前年同期62.7% → 当期61.8%)	
	販管費 +57億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	▲2億円
	・広告宣伝費	+30億円
	・販売促進費	+16億円
	・人件費	▲9億円
・その他	+22億円	
営業外損益：持分法投資利益 3億円(▲14億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度：通期業績予想

(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	修正額*
売上高	2,905	▲55	▲1.8%	2,930	▲25
セルフメディケーション	1,764	▲54	▲2.9%	1,789	▲25
医薬	1,141	▲1	▲0.1%	1,141	-
営業利益	290	▲127	▲30.4%	290	-
経常利益	370	▲142	▲27.8%	370	-
当期純利益	240	▲87	▲26.6%	240	-
EPS(円)	296.05	-	-	296.05	-

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年10月31日時点の予想との比較



2014年度：業績予想の修正

売上高：第3四半期までの状況を踏まえ、25億円の下方修正

- **セルフメディケーション事業** (▲25億円)

- 国内 (▲22億円)：主に第3四半期の進捗遅れ分を反映
主要ブランドの修正内容

- リポビタンシリーズ ▲17億円
- パブロンシリーズ ▲4億円
- リアップシリーズ +5億円
- リビタシリーズ ▲1億円

- 海外：修正なし

- **医薬事業**：修正なし

営業利益・経常利益・当期利益：修正なし

- 販管費：第3四半期までの状況を反映して見直し



2014年度予想 主要ブランド売上高（SM国内）

（億円）

	通期予 （新）	前期比増減		通期予 （旧）	修正額*
リポビタンシリーズ	623	▲51	▲7.6%	640	▲17
パブロンシリーズ	254	▲6	▲2.5%	257	▲4
リアップシリーズ	145	▲11	▲6.8%	140	+5
リビタシリーズ	41	▲6	▲12.9%	42	▲1
胃腸薬シリーズ	40	▲3	▲6.2%	40	+0
ナロンシリーズ	38	▲3	▲8.3%	39	▲2
コーラックシリーズ	34	▲2	▲6.0%	34	▲0

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

*2014年10月31日時点の予想との比較



2014年度予想 SM海外事業売上高

- 2Q発表時(2014年10月31日)からの修正:なし

主な内訳

(億円)

	通期予想	前期比増減	
海外事業	277	+23	+9.2%
SM海外	277	+23	+9.1%
海外ドリンク剤	94	+4	+4.8%
海外OTC医薬品	174	+19	+12.4%
アジア	147	+15	+11.5%
その他	27	+4	+17.5%

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度予想

医薬事業：主要製品売上高

- 2Q発表時(2014年10月31日)からの修正:なし
(億円)

		通期予想	前期比増減	
感染症領域				
	ゾシン	265	+11	+4.4%
	クラリス	138	▲26	▲15.9%
	オゼックス	64	▲8	▲11.1%
炎症・免疫領域				
	エディロール	165	+24	+17.4%
	ボンビバ	36	+24	+193.4%
代謝性疾患領域				
	パルクス	70	▲9	▲11.2%
	ルセフィ	27	+27	-

注:金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



2014年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (▲55億円)	セルフメディケーション事業 (▲54億円)	医薬事業 (▲1億円)
営業利益 (▲127億円)	売上総利益* ▲57億円 (売上総利益率* 前年同期62.4% → 当期61.6%)	
	販管費 +70億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	+0億円
	・広告宣伝費	+27億円
	・販売促進費	+22億円
	・人件費	▲7億円
・その他	+27億円	
営業外損益：持分法投資利益 9億円(▲15億円)		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後

金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



医療用医薬品：開発品の状況

- 2014年度第2四半期決算発表時(10月31日)からの変更点

(2015年1月30日現在)

TS-091(海外)	
予定適応症	中枢性過眠症(過眠症状改善作用)
変更点	新たにフェーズ1(海外)に追加



医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2015年1月30日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態 国内／海外	オリジン
申請中			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症	トクホン共同 国内	トクホン
フェーズ3			
CT-064* (経口)	<u>ビスホスホネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同 国内	ロシュ
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症(過眠症状改善作用)	自社 国内	大正製薬

*CT-064：一般名：イバンドロン酸ナトリウム水和物、中外製薬における開発コード：RG484



医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

大正製薬開発品：フェーズ1

(2015年1月30日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-111 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症(過眠症状改善作用)	自社	海外

*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



研究開発費の動向

2014年度3Q実績: 154億円(前年同期比▲2億円)

(内訳)SM事業: 前年度並み、医薬事業: ▲2億円

2014年度通期予想: 6億円引き下げ、219億円(前年度並み)

(引き下げ額の内訳) 医薬事業: ▲6億円

